



いのちの大切さを考える絵本（幼児～小学生向け）

「みとめあうってすてきだね」(3)

読み聞かせを楽しみながら いのちの大切さを考えてみませんか？

市内5つの図書館で借りられます。



東村山市立図書館

まっくろネリノ ヘルガ=ガルラー/さく やがむすみこ/やく 偕成社

にいさんたちはきれいな色なのに、ぼくだけまっくろ。いつもひとりぼっちで、だれにもあそんでもらえない。どうしたらみんなのように、きれいな色になれるのかなあ。

てるちゃんのかお 藤井輝明/文 亀澤裕也/絵 金の星社

てるちゃんが2才のころ、かおに大きな赤いこぶができました。こぶはおいしゃさんにもなおせませんでした。小学校にはいると、みんなにいじめられましたが、てるちゃんはだれにも話せませんでした。

いろいろかぞく トッド・パール/さく ほむらひろし/やく フレーベル館

おおきなかぞくもあれば、ちいさなかぞくもある。くっついてくらすかぞくもあれば、はなれてくらすかぞくもある。かぞくのかたちはいろいろだけど、かぞくはいつでもしっかりたすけあっている。

おんなじ、おんなじ!でも、ちょっとちがう! ジェニー・スー・ロステキ=ショー/作 宮坂宏美/訳 光村教育図書

アメリカ人のエリオットとインド人のカイラシュは、手紙でおたがいのくらしを紹介しあって気づいた。それはすんでるところはちがっても、おんなじ人間で、ともだちになれるっていうこと。

さかさまになっちゃうの クレア・アレクサンダー/さく 福本友美子/やく BL出版

アルフィーはみんなのように字が書けません。さかさまになってしまうのです。でも、せんせいに教わり、少しずつ上手になりました。だれでも苦手なことがある、ひとりでなやまなくていいんだよ、というメッセージがあたたかい。

よかったなあ、かあちゃん 西本鶏介/ぶん 伊藤秀男/え 講談社

公園で出会ったおばあさんは、ぼくのことを自分のむすことまちがえて「かずや」と呼んだ。「おばあさんはあかんぼうにもどっちゃったんだよ。」少年たちがみつめるお年寄りのすがた・・・。

ローラのすてきな耳 エルフィ・ネイセ/作 エリーネ・ファンリンデハウゼ/絵 朝日学生新聞社

ローラは耳がよく聞こえません。みんなの話がよく聞こえなくて仲間に入れてもらえないこともありました。でも病院で検査をして「補聴器」というデジタルの耳をつけたらよく聞こえるようになりました。

ええところ くすのきしげのり/作 ふるしょうようこ/絵 学研教育出版

せはひくいし、はしるのもおそいし、100点もとったことがない。「わたしって、ええところひとつもないなあ」そしたら、ともちゃんがわたしのええところをさがしてくれた。

【平成25年度 東村山市「いのちの教育」推進プラン関連事業 平成26年1月発行】